

平成27年度実施分 評価コメント(協働事業)

NO	事業名	団体名	事業担当課	評価コメント
1	地域連携 自主防災事業	栗ヶ沢中学校 地域防災 委員会	危機管理課	<p>【会長】 事業経験の蓄積が新たな課題の発見につながり、それに取り組むという好循環が生じているのを感じます。特に「小金原要配慮者支援会議」が発足したことは、この事業の価値を高めたと思います。 団体と危機管理課がともに成果の「見える化」「伝える化」に励まれ、多くのステークホルダーを巻き込んで、「足下からの連携力と自主力」が高まることを期待します。</p> <p>【委員】 活動としては概ね良好、順調に行われたと考える。協働事業として、当該団体と担当課との連携はスムーズに行われ、ことに情報の共有も迅速にとられていたことがわかる。避難所開設運営に向けての連絡会議も比較的1ヶ月くらいで開催され、地域と行政との連携、他にもNPO等との協働もなされていることが他の資料からも推察できる。ある意味においてはガバナンス（協治）の典型的な姿がみられる。防災を通じ、地域福祉との繋がりがあり、これからが楽しみである。 今後も、大変かとは思いますが、このような事業を継続してほしい。</p> <p>【委員】 ①災害大国日本においては先日の熊本大震災を考えると、とてもすばらしい事業と考えています。この地域づくりを「情報発信+広げて行く(松戸市他地域)連携」について、そろそろ他に成果を発信してほしい。 ②担当課の危機管理課との連携がとても良い。要配慮者支援会議の開催と広がり、今後も行ってほしい。評価できる。(事務局を作っている。)</p> <p>【委員】 町会・自治会単位を超えた大きな地域での連携という貴重な取り組みであり、今後、小金原連合町会との連携を密に進めてほしい。また根木内中学校管内へと範囲拡大(小金原全体)を期待します。「要配慮者支援会議」を設置したことが素晴らしいと思います。</p> <p>【委員】 現在多くの日本人が、先日の熊本地震の状況を見るにつけ地域防災がいかに大切であるかを痛切に感じているのではないのでしょうか。そして何らかの形で防災に対して手を付けていると思います。しかし個人では限度があります。こちらの様に中心となる団体としての栗ヶ沢中学校地域防災委員会があり、防災訓練や避難所開設の手引きの作成などの活動はタイムリーであり大変有意義なものと思われま。又、実際に被災した時はメンバーも被災者であることを十分に認識して、出来る限りの準備をしているとのことで、この地域の人々にとっては心強い存在になっていると思います。出来ればこの活動を他の地域に浸透させていくことも、今後の活動の柱として更なる邁進を期待しています。</p> <p>【委員】 この事業は中学校区をエリアとした広域での取り組みであり、各自治会との合意づくりから始めた挑戦的な取り組みである。一筋縄ではいかない地域内連携体制づくりのプロセスこそ、モデルとなると思う。スムーズに進まなかった点、そのために取った方法等も参考にしたい。</p> <p>【委員】 素晴らしい活動をされています。災害は、行政や校区などの境界線に関係なく発生します。今後の課題でも述べられたように、近隣の町会自治会などとの協議を行って、協力しながら水平展開されることを期待します。</p> <p>【委員】 地元の中学生を巻き込んだ訓練実施は、若い世代の防災意識を高める大変良い事業であると思う。 担当課との連携もしっかり取れていて、今後の継続を期待する。</p>
2	協働による「協働のまちづくり講演会」事業	特定非営利活動法人まつどNPO協議会	市民自治課	<p>【会長】 従前の講演会と違う切口とやり方で、講演会の価値を高める試みだったと評します。特に、講演会の中で市職員と市民団体との双方向のやり取りを生み出すことを狙った問題意識は、円卓に抛る対話の時間で具体化することができたと思います。 一方、講演会の参加者が27人に止まったのは、開催日時が平日日中だったからなのか、もう一度振り返るのが大切だと考えます。 市民自治課と団体はともに講演会で得られたことを市職員と市民団体へ「伝える化」「見える化」に励み、協働のまちづくりへの関心を喚起されることを願います。</p> <p>【委員】 役割分担も明確になされ、いわゆる「協働」よりもNPM(新公共管理)という側面ではすばらしいものである。但し、「事業成果について」で触れられているように、さらに、市民を巻き込んでいく、すなわちPI(パブリックインボルブメント)の志向へとつながっていることは大いに評価できよう。NPMから協働への本格的な移行が事業の実施を通じ、目標となっていくことは成功への軌跡として今後の活動に大いに期待できる。</p> <p>【委員】 ①「協働のまちづくり講演会」に参加しやすい講演会にしたい、との部分が、市内大学(聖徳大学生涯学習研究所の共催)が会場を引き受ける等、連携出来たことを、評価いたします。 ②インタビュー冊子の配布と使用方法をもう一度考えたほうがよいのではないのでしょうか。紙レベル以外のWeb上の公開も大切である。</p> <p>【委員】 聖徳大学や青年会議所から、また市議の参加があったことは今後への期待がもたれます。参加年齢が20~70代と広がったことも収穫でした。アンケート等による反省をもとに、今後への検討を期待します。</p> <p>【委員】 市民と行政による協働の街づくりを推進する為の活動のようです。メインの活動は講演会により市民や行政側の人々に働きかけるということの様ですが、成果報告書にもありましたように、平日開催を前提としている為に集客が限定されているというところに問題点があるようです。今までの慣習に捕らわれないで休日の開催を実現することが、多くの人々にアピールできる最大のポイントではないかと考えます。</p> <p>【委員】 参加者が目標に達しなかった点について、広報期間が短いこと、なぜそうなったのかについて検討し、次に活かしていただきたい。団体自主事業で実施する場合と違い、協働して行うことには相互の確認等があり、スケジュールには時間的余裕を持つことが重要であり、そのうえで進捗管理をすることが望まれる。</p> <p>【委員】 具体的成果報告内容と自らの評価、市担当の評価にかなりのギャップが見られます。前年度の反省・見直しをきちんと行って、次の計画を立ててください。でないと、単に市役所の中に小さな市役所を作ったことになりかねません。また、報告会の中で、自らの実績を十分把握してなかったのは残念に思います。</p> <p>【委員】 行政との協力関係を更に構築され、多くの市民を巻き込んでいただきたい。</p>